様々な立場の人が集う大都市河川・荒川における合意形成手法

特定非営利活動法人　あらかわ学会　理事長　鈴木　誠

荒川は、甲武信ヶ岳を源流に熊谷・寄居を通って都内に入る全長147キロメートルの一級河川である。「あらかわ学会」は、さまざまな価値観をもった人々が活動する荒川で、同じ土俵で議論しあう場を構築し、川と人々の健康で文化的な生活に貢献することを目的に、平成8年8月6日、任意団体「あらかわ学会」（会長：宮村忠（現顧問））としてスタート。平成15年3月にNPO法人格を取得して活動している。　http://www.arakawa-gakkai.jp/

あらかわ学会の主な活動

年次大会

荒川での事業・活動・研究・提案などを1人20分の持ち時間で発表しあう大会。行政マン、企業、一般市民、こどももおなじ20分で発表をおこなう。募集は、河川土木部門、スポーツ・レクリエーション部門、自然・環境部門、地域社会部門、プラン提言部門、歴史・民俗部門、芸術・文化部門に分かれ、発表（論文発表、展示、ポスターセッション）は部門横断的に同一会場で実施。9年間の累積論文数は510点、および展示・ポスターセッションは85点に及ぶ。

自然環境委員会　野鳥観察

歴史民俗委員会　歴史探訪

様々な立場の人が集う大都市河川・荒川における合意形成手法

特定非営利活動法人　あらかわ学会　理事長　鈴木　誠

美術委員会「屋形船から見える風景を描こう」

写真委員会「ロックゲートを写そう」

荒川セミナー

歴史民俗、自然環境、写真、美術委員会の各委員会が協同して、毎年「荒川セミナー」を開催している。荒川セミナー実行委員会を組織して年間6～7回のセミナーを実施。今年度で7年目にあたり、累積セミナー数は32件。特にこの3年間は、「荒川の新しい将来像計画を考える」と題して、荒川の過去・現在の資料を一般からも収集、記録・研究し、荒川の未来を語り合う研究発表やシンポジウムを展開。将来のよりよい荒川像を様々な立場の人々が模索し集約している。

各委員会活動

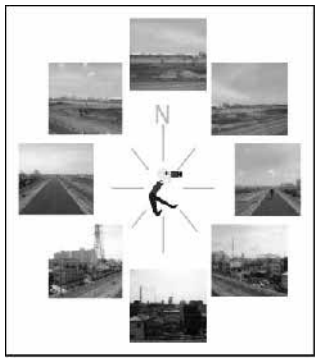
歴史民俗、自然環境、スポーツレクリエーション、写真、美術委員会が、それぞれに活発に活動し、各委員会主催のフォーラム、川歩き、観察会、撮影会、絵画教室、展示会、ニュースレターの発行などを行っている。「荒川クリエーション美術展」は協賛団体として、公募展を毎年行っている。また、学芸員や郷土史研究家が集まっている歴史民俗委員会では、荒川知水知資料館に情報提供を行うなど他団体との交流も活発に行なっている。

各委員会による出版物等：荒川お散歩マップ、「まわってめぐってみんなの荒川」「荒川の舟運」、歴史民俗委員会フォーラム資料集全9冊、ポストカードブック「荒川」、ポストカード「荒川と富士Ⅰ、Ⅱ」、荒川両岸まち歩き「千住」、資料集「荒川と富士」

荒川Web探検隊

荒川でのIT教育プログラムの提供を目的としつつ、川での体験活動を子どもたちとともに行って

Web探検隊　伝統漁法の復元　笹伏せ漁



みんなで東京湾から笹目橋まで
1kmごとの360度を一斉記録

いる。そして「建干漁」「笹伏せ漁」「地引網」など伝統漁法の復元と記録を子ども参加で企画・実施し、これまでに2本の教育ビデオを製作、本年も1本作製中。また、ホームページ「荒川WEB探検隊」では、荒川でインタビューした様々な取り組みをレポートし「リバーサイドゴーゴー「いけいけ川っぷち団」の大変だ～新聞」として月一回更新している。http://www.arakawa-gakkai.jp/tanken/index.html

ある日の荒川一斉記録

市民参加で、同一日に荒川下流1kmごとの距離標に立ち、45度ずつ8アングルを写真に収め、河川敷利用者や川の印象・町の印象を記録（16・17年実施）。荒川の定点観測を行っている。同一日の様子を記録した一斉写真は今までにないので、将来の資料として重要と考えており、毎年継続していきたい。

第一回川の日ワークショップ関東ユース大会

荒川のみならず、関東の川活動を活性化させたいと、平成17年11月12日、第一回「川の日ワークショップ関東ユース大会」の呼びかけを行い、事務局を担った。1都5県からユースを中心とした19団体の活動発表があり、約120名が参加、川づくりについての公開討論会を行い、様々な立場からの様々な活動を通じ川と人とのよりよい関係を議論した。

どんな魚が取れたかな

川の日ワークショップ関東ユース大会

「荒川と富士」の活動

関東地方整備局募集の「関東の富士見100景」に荒川下流として応募し、選定されたことを記念して「荒川と富士」の一般からの写真募集と写真委員会によるポストカードの制作をおこなった。また歴史民俗委員会は、資料集「荒川と富士」を編集した。

ポストカード　富士の見える荒川

様々な立場の人が集う大都市河川・荒川における合意形成手法

特定非営利活動法人　あらかわ学会　理事長　鈴木　誠

公平なルール作り

それぞれの立場を尊重すること、お互いを理解して会を運営することに務めてきた。役員が交代しても同じように民主的に運営していけるようにするためには、一定水準のルール作りが必要であるが、一つの価値観で成り立つ組織ではないだけに、大変な時間と労力がかかっている。また議事録の作成や記録も重要であるので、神経を使う。それには、事務局体制の安定化が急務であった。そこで事業受託等を可能にするために、総会においてNPO法人化への合意形成を図り、組織を一新して運営してきたが、実際には事業受託はまだ実現していないので、いまだに不安定な経営といわざるを得ない。そのような中にあっても、会費や補助金制度の運用により、既存事業を着実にこなすと同時に、新規事業を打ちたてながら事業展開してきたことにより、「関東の富士見100景」選定につながった。さらに、ある日の一斉記録やWeb探検隊のような幅広い活動を展開してきたことによって、全国「川の日ワークショップ」で入選を果たすことができたことは大きな喜びと励みとなった。さらに、17年度には、関東の川活動の活性化をめざして「川の日ワークショップ関東ユース大会」を実施し、荒川のみならず関東の川で活動している方たちの活動発表の場を作ることができ、皆が川仲間になることができた。

多様な価値観をもつ人々が相互に理解しあい、話し合いを通じて“川づくり”の理念や理想像などについての合意を形成することは、現実的にはかなり難しい。まず、多様な価値観をもつ人たちが集まる場を作り、話し合いや運営のルール、すなわち「川づくりにおける民主主義的なルール」を構築し、交流をしていかなければならない。「あらかわ学会」は設立当初から多様な価値観や活動経歴を持つ方たちの集合体である。理事会メンバーも同じように多分野からの参加のため、より良い川づくりに貢献するための方法やルール作りにかなりの時間を割いてきた。毎年行われている年次大会では、河川事務所、地方自治体職員、企業、市民団体、市民、こどもも同じ条件で発表しあう場を設けてきており、9年間の累積論文数は510点、および展示・ポスターセッションは85点を数えるまでになった。荒川セミナーにおいては、より多くの人に荒川をより深く知ってもらい、参加してもらうための講座やシンポジウムを多数開催してきた。まさに急がば回れの手法で、合意形成のルール作りが進捗しているところであり、今後もこれを力強く推進したいと考えているところである。荒川がどう変わってきたのか、どう変わっていくのかを観察し続け、荒川と人、荒川とまちづくりに対する問いかけを行っていきたい。